

Title	飛騨史料 維新前後之一(岡村利平編, 飛騨史談會刊行)
Sub Title	
Author	武田, 勝藏(Takeda, Katsuzo)
Publisher	三田史学会
Publication year	1927
Jtitle	史学 Vol.6, No.4 (1927. 12) ,p.162(636)- 162(636)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19271200-0163

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

蚊帳に就て——蚊帳の釣初め、釣手等に就いての話。

コブ雑談——蜘蛛に關する話で九州では蜘蛛をコブと云ふ。

夢と俚諺——佐賀郡地方の諺「夢百日播きしを、三日蒔しを」等に就いて記述し、是は夢の播期のまちまちであるにもかゝらばらず、其の蒔入時は梅雨等を控えるので精々三日位の差があるとの意義である。

河童のはなし——肥後八代地方では游泳の時河童除けとして佛前の飯を喰うとか、鳳仙花で足指を赤く染めなどを始め、九州各地の河童話を集めたもの。

石楠草と通草子の俚諺——兩者の俚諺に就いて記したるもの。(昭和二、八、一、武田勝藏)

飛 驒 史 料

維新前後之一

(岡村利平編 飛驒史談會刊行)

本書は岡村利平氏の撰史備用として蒐集せられた太古より明治に至る史料中、維新前後の一部(元治元年正月—明治元年六月中旬)を印行せられたものである。毎條の首に綱文を置いて其の事件の概要を摘録し、次に史料を列載して、同時代に於ける周囲の状況を知る唯一の書である。本書は飛驒を郷里とする人は勿論、維新史研究者の一覽すべきものである。

猶本書の印行を同地の史家として有名な陸軍中將押上森藏翁の勸告並に捐資によると云ふが、不幸にして翁は本書の印刷中に逝去あつて其の完成を見られざりしと。筆者は故翁には各種研究會に同席し、研究旅行に同行して屢高説を拜聴し、其の聲今猶ほ耳

朶に存して居る。過般其の訃報を聞いて哀悼の念に堪へず、今本書印行の次第を讀んで更に追憶の念を深くするものである。

本會はかく有益の良書を研究用として寄贈せられし飛驒史談會に感謝の意を表し、且つ右續編も不日學會の爲に印行あつて故翁の靈を弔慰せられむ事を切望して止まない次第である。(二、十、一、武田勝藏)

東京 史蹟案内

(一高史談會編 古今書院發行)

本書は、一高史談會が、實地史學演習の爲め、大正二年より以降數十回にわたつて、東京近郊の史跡踏査研究の結果、成れるものであつて、世間にありふれた、この種の案内書と、類を異にする眞面目なる研究的なるものである。従つて、一般讀者にも、専門の歴史家にとりても、好同伴たるは疑ない。

本書は、先づ總説として、本書の範圍の地理的、歴史的沿革の概要を叙し、各説に對する意義、及び關係を明かにしてゐる。而して、各説は章別に凡そ一日の行程を規準として、大體南から右廻りに排列し、各史蹟については、その現状、沿革、關係事項等を、道順に説明し、且つ、説明の事項に従つて、活字を組みかへ、一見判別に便にしてゐる。更に部分參考書、參考論文等は、適宜に文中に挿入し、一般的參考書は、別に卷末に附録として載せ、合せて簡単に内容の得失長短について、短評を加へてゐる。尚ほ又、陸地測量部の地圖を併用するやうに、道順を示し、殊に史跡檢出の便を計り、索引、並びに年號表を、附して、飽くまでも親